

地域資源を生かした観光振興と 若者の県内就職・県内定着について 意見交換を行いました。

県議会では、定期的に県民の皆さんとの意見交換会を行っており、令和5年度の後期は、12月14日に軽米町、12月21日に宮古市を会場に開催しました。

軽米町会場では、県北地域で活躍する様々な業種の方たちが参加し、「地域資源を生かした観光振興について」をテーマに、自然、文化、歴史、食文化など特色ある地域の資源や、海と山のネットワークを生かした観光の広がりについて意見を交わしました。

宮古市会場では、宮古市内の短大などで学ぶ学生たちが参加し、「若者の県内就職と県内定着について」をテーマに、就職先に県内を選ぶポイントや希望、若者の心を捉える岩手の魅力、必要な支援などについて意見を交わしました。

※詳しい内容は県議会ホームページでご覧になれます。

軽米町会場



参加者の感想

大久保 瞳さん

(軽米町会場 / 特定非営利活動法人カシオペア市民情報ネットワーク放送局長)

カシオペア市民情報ネットワークは県北初のコミュニティFMとして2005年に開局し、現在は二戸市、一戸町、軽米町、九戸村と青森県の一部のエリアで放送しています。今日は久慈市や洋野町など沿岸地域の皆さんとお話ができて有意義でした。インバウンドへの対応など、それぞれ課題を抱えながら活動されていることに共感しました。私の仕事は情報発信が主であり、日々のラジオ放送で観光を含めた地域の現状を伝えていきたいと思っています。

姉石 慎也さん

(宮古市会場 / 県立宮古高等技術専門学校金型技術科)

宮古市は金型部品の工場が多いと聞き、専門学校でしっかり技術を学びたいと思いました。金型技術科は地元で就職すると授業料などが補助されるので、それも魅力の一つでした。卒業後は地元の会社に就職します。自宅から通えるし、地域の役に立ちたいと思うからです。今日の参加者はほぼ同年代なのに、みんなしっかりした考えを持っていて勉強になりました。皆さんの意見を聞いて、自分ももっと社会のことや岩手のことを知りたいと思いました。

宮古市会場



あなたと
つくる
いわての
いわて
県議会

✦
いわて
県議会
だより

I W A T E P R E F E C T U R A L A S S E M B L Y

12月定例会のあらまし

12月定例会は、11月28日から12月12日まで開催されました。知事から提出された令和5年度岩手県一般会計補正予算など、30件の議案は全て可決・同意され、委員会が提出した安全・安心を無視した無秩序なライドシェアの導入に反対し地域公共交通を守る施策の推進を求める意見書など13件の議案は全て可決されました。

また、請願は8件全てが採択されました。

議決の状況

★議員別の賛否の状況は県議会ホームページでご覧になれます。

■知事提出議案

◎令和5年度補正予算【可決】

一般会計2件 特別会計4件

◎条例議案【可決】

特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例など8件

◎その他の議案【可決】

損害賠償請求事件に係る和解及びこれに伴う損害賠償の額を定めることに関し議決を求めることについてなど10件

◎予算関連議案【可決】

農業関係の建設事業に要する経費の一部を負担させることに関する議決の変更に関し議決を求めることについてなど5件

◎人事議案【同意】

収用委員会の委員の任命に関し同意を求めることについて

■委員会提出議案【可決】

決議1件、意見書12件(詳細は2ページに記載)



採決の様子

請願の採択状況

★採択された請願の本文は県議会ホームページでご覧になれます。
★請願の件名は請願書のとおり記載しています。

◎採択(意見書を発議し、関係機関に要望することとして採択)

- ▶ 免税軽油制度の継続を求める請願
- ▶ 安全・安心を無視した無秩序なライドシェアの導入に反対し地域公共交通を守る施策の推進を求める請願
- ▶ 私学助成の充実強化等に関する請願
- ▶ 私学助成を拡充させ、教育費負担の公私間格差をなくし、子どもたちにゆきとどいた教育を求める請願
- ▶ 国民医療を守ることを求める請願

- ▶ 国民のいのちと健康を守るため、医療・介護施設への支援を拡充し、2024年診療報酬・介護報酬を引上げ、ケア労働者の賃上げ・人員配置増を求める請願

◎採択

- ▶ 岩手県における産後ケア事業の更なる充実・強化を求める請願
- ▶ 岩手県のがん対策の推進に関する請願



令和5年12月定例会

第189号

「いわて県議会だより」は各市町村を通じて県内全世帯にお配りしています。点字版・テープ版・デジター版も用意していますので、ご希望の方は、県議会事務局までお問い合わせください。

音声データ掲載のご案内
「いわて県議会だより」の音声データを岩手県議会ホームページに掲載しています。第189号のデータは、2月中旬頃に掲載する予定です。

<https://www.pref.iwate.jp/gikai/koho/dayori/1057389/index.html>



©わんこさようだい



ホームページのご案内

議会の概要、議員名簿、本会議の会議録、本会議のインターネット中継、傍聴や請願・陳情の手続等をご覧いただけます。
<https://www.pref.iwate.jp/gikai/index.html>

編集・発行・
問い合わせ先

岩手県議会事務局

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10番1号
電話 (019) 629-6021・6022 FAX (019) 629-6014
E-mail gikai@pref.iwate.jp



岩手県庁の隣です

委員会が提出した議案

★意見書の本文は県議会ホームページでご覧になれます。

今定例会では決議1件、意見書12件が可決されました。可決された意見書は、県議会から、内閣総理大臣をはじめ国会や国の関係機関などに提出し、その実現を図るよう強く要望しました。

◎決議

▶パレスチナ自治区ガザ地区における即時かつ持続的な人道的休戦を求める決議

◎意見書

- ▶安全・安心を無視した無秩序なライドシェアの導入に反対し地域公共交通を守る施策の推進を求める意見書
- ▶国民のいのちと健康を守るため、ケア労働者の処遇改善等を求める意見書

- ▶免税軽油制度の継続を求める意見書
- ▶私学助成制度の充実を求める意見書
- ▶国民医療を守ることを求める意見書
- ▶デフレ完全脱却のための総合経済対策の推進に向けた地方財政の確保、充実を求める意見書
- ▶食品ロス削減への国民運動の更なる推進を求める意見書
- ▶防災・減災、国土強靱化の更なる推進を求める意見書
- ▶学校給食費の無償化制度の構築を求める意見書
- ▶ツキノワグマなどの鳥獣による被害防止対策の充実・強化を求める意見書
- ▶保育所等の調理員配置基準の見直しを求める意見書
- ▶政治資金規正法違反疑惑の徹底解明を求める意見書

県政に関する質問から

12月4日から12月6日まで行われた一般質問では、9名の議員が質問に立ちました。その中から、それぞれ1項目を取り上げ、議員の質問と知事または関係部局長等の答弁の要旨を紹介します。

12/4月 一般質問

各質問者の録画映像はQRコードからご覧いただけます。または「岩手県議会中継」で検索してご覧いただけます。※視聴環境はWi-Fiおよび各キャリアの高速回線サービスを推奨します。



1日目

希望いわて

郷右近 浩 議員

◆奥州選挙区

各議員の質問の詳細と答弁の内容は、動画でご覧いただけます。



周産期医療圏

問 県内には4つの周産期医療圏が設定されており、胆江地区が含まれる岩手中部・胆江・両磐医療圏は、次期保健医療計画でも継続される案となっている。人口動態統計を見れば、奥州市、金ケ崎町の0歳から39歳までの人口は盛岡に次いで多量中、現在、奥州市と金ケ崎町には出産可能な医療機関がない状況である。

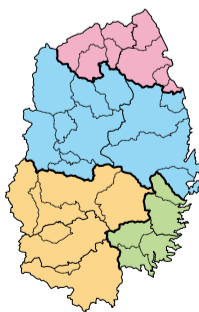
出産に当たっては、もっと身近な場所での医療提供体制を構築する必要があり、安心して子どもを産み育てる環境を整備していくことが重要と考えるが、奥州市、金ケ崎町における周産期医療の提供体制について、県の考えを伺う。

答 次期保健医療計画における周産期医療圏の検討に当たっては、産科医の確保が重要な要素であり、奨学金による医師養成などにより産科医は着実に増加しているものの、引き続き4つの周産期医療圏の下での体制を維持することが適当であるという県小児・周産期医療協議会の取りまとめを踏まえ、次期計画の素案を作成した。奥州金ケ崎地域については、県南圏域の中に配置された複数の地域周産期母子医療センターなどによる分娩リスクに応じた機能分担と連携の下で対応していくこととしたところ。

県では、引き続き奨学金制度を活用して産科医や小児科医の確保に取り組むとともに、周産期医療情報ネットワーク「いーはとーび」を活用した情報連携による妊娠から産後までの切れ目のない支援や、健診や分娩に係る通院・宿泊費の助成、産後ケアなど、市町村と連携しながら安心して妊娠・出産ができる周産期医療の充実に努めていく。

盛岡・宮古医療圏

- ・盛岡市
- ・宮古市
- ・八幡平市
- ・滝沢市
- ・幸石町
- ・葛巻町
- ・岩手町
- ・紫波町
- ・矢巾町
- ・山田町
- ・岩泉町
- ・田野畑村



4つの周産期医療圏

岩手中部・胆江・両磐医療圏

- ・花巻市
- ・北上市
- ・遠野市
- ・一関市
- ・奥州市
- ・西和賀町
- ・金ケ崎町
- ・平泉町

久慈・二戸医療圏

- ・久慈市
- ・二戸市
- ・普代村
- ・軽米町
- ・野田村
- ・九戸村
- ・洋野町
- ・一戸町

■上記のほかに、下記についても質問をしています。

- 1 物価高騰対策
- 2 令和6年度当初予算編成
- 3 二次保健医療圏と疾病別・事業別医療圏
- 4 産業人材の育成



2日目

自由民主党

岩崎 友一 議員

◆釜石選挙区

各議員の質問の詳細と答弁の内容は、動画でご覧いただけます。



継続的な震災伝承等の合同プロジェクト

問 震災伝承は、私たちの子孫が二度と同じ悲劇を繰り返さないためにも、期間や時間を区切ることなく継続して取り組まなければならない課題である。2019年に開催された三陸防災復興プロジェクトについて、私は当時、時期尚早であること、それでも開催するのであれば継続して行いべきと述べてきたが、単発で終わってしまったことは、非常に残念である。

そこで提案として、改めて被災地の経済の復興及び震災伝承を目的とした県、市町村合同の継続的なプロジェクトを実施すべきと考えるが、知事の見解を伺う。

答 県では、これまで三陸防災復興プロジェクト2019やラグビーワールドカップ2019岩手・釜石開催、防災推進国民大会2021など、様々な機会を通じ、復興支援への感謝や復興の姿、三陸地域の多様な魅力を国内外に発信してきた。三陸防災復興プロジェクト2019の目指す姿や取り組みは、いわて県民計画に掲げる三陸防災復興ゾーンプロジェクトに継承し、東日本大震災津波伝承館を拠点とした震災の事実・教訓の伝承と復興の姿の発信に取り組むとともに、復興の象徴である三陸鉄道や三陸ジオパークなど地域の資源を活用した誘客促進、三陸の豊かな食を生かした施策などを展開してきた。

ご提案の県、市町村合同のプロジェクトについて、三陸防災復興プロジェクト2019で実施した22の事業のうち11事業は、現在もその趣旨を引き継ぎながら実施している。今後も市町村等と連携し、事業の継続を前向きに検討していく。



三陸防災復興ゾーンプロジェクトの概要

■上記のほかに、下記についても質問をしています。

- 1 釜石港の振興
- 2 海業の振興
- 3 たっそ拓也マニフェスト+39
- 4 県北・沿岸振興 ほか



3日目

希望いわて

佐藤 ケイ子 議員

◆北上選挙区

各議員の質問の詳細と答弁の内容は、動画でご覧いただけます。



奨学金返還支援制度

問 日本学生支援機構の令和2年度学生生活調査によると、奨学金を受給している大学生は49.6%、短大生では56.9%と多くの学生が利用している。労働者福祉中央協議会のアンケートでは、大学生の平均借入額は約310万円で、返済の負担感について44.5%が「苦しい」と回答している。奨学金返済を考慮し、賃金の高い都市部へ就職することが、若者流出の要因の一つでもあると考えられる。

いわて産業人材奨学金返還支援制度は最大で250万円の助成額だが、支援対象者の状況、実績はどうか。また、対象業種の拡大や対象要件の緩和などの拡充策を検討しているのか伺う。

答 いわて産業人材奨学金返還支援制度は、ものづくり企業等の技術力や開発力の向上などを担う高度技術人材の確保と県内定着、U・Iターンを促進するため、平成29年度に創設したもので、令和4年度までの6年間で計316人を支援対象者として認定し、うち300人が県内企業で就業している。

対象業種については、従前からのものづくり、IT、建設関連などのほか、今年度はさらに、業種に関わりなく、若者や女性が力を発揮できる環境づくりや働きやすい職場づくりの認定を取得している企業を対象に加え、支援対象者も文系・理系を問わず全ての学生を対象とした。

県としては、まずはこうした制度の拡充内容をしっかりと浸透させていくことが重要と考えており、今後の実績の推移などを見据えながら見直しの検討を行っていきたいと考えている。



いわて産業人材奨学金返還支援制度ポスター

■上記のほかに、下記についても質問をしています。

- 1 物価高騰・経済対策
- 2 物流・交通
- 3 農業政策
- 4 働き方改革 ほか

岩手県議会パネル展示

県議会議事堂1階玄関ホールで県議会の歴史や活動を紹介するパネル展示を行っています。どなたでも自由にご覧いただけます。ぜひ、お立ち寄りください。

- 展示内容／県議会の歴史、議事堂の変遷、委員会活動の様子など
- 展示時間／月曜日から金曜日 8時30分～17時15分(年末年始・祝日を除く)



若者向け傍聴案内ポスターデザイン コンテスト入賞作品の中から、 12月定例会のポスターを作成しました。

岩手県立一関第一高等学校 **村上 朔** さん

「岩手の未来において、より高みを目指したい」という思いから、登山をモチーフに選びました。また、岩手の自然の険しさや美しさも同時に表現しようと考えました。私たち若い世代でよりよい未来を創るのだ、という思いをみんなと共有したく応募したので、県議会に興味を持つきっかけになれば嬉しいです。



12/5(火) 一般質問

各質問者の録画映像はQRコードからご覧いただけます。または「岩手県議会中継」で検索してご覧いただけます。
※視聴環境はWi-Fiおよび各キャリアの高速回線サービスを推奨します。



1人目

いわて新国会

ちば さかり
千葉 盛 議員

◆大船渡・陸前高田
選挙区

各議員の質問の詳細と
各弁の内容は、動画で
ご覧いただけます。



2人目

希望いわて

ひげやま しげる
畠山 茂 議員

◆宮古選挙区

各議員の質問の詳細と
各弁の内容は、動画で
ご覧いただけます。



3人目

自由民主党

かわむら しんこう
川村 伸浩 議員

◆花巻選挙区

各議員の質問の詳細と
各弁の内容は、動画で
ご覧いただけます。



ILC誘致のアピール

問 大船渡港はILCの建設に必要な大型機器等の荷揚げ港としての活用が期待されている。

岩手日報の記事では、弘兼憲史氏が「ILCを実現へ盛り上げていくには、やはり知名度が大事。岩手には世界に通用する大谷翔平選手、佐々木朗希投手がいる。両側から160キロのボールを投げ合い、ぶつかったところでビッグバンが起こる。これがILCのイメージだと、CGを使った見せ方もある」と語っている。このCGを使ったイメージ映像は、ぜひともILC誘致のために実現すべきではないかと思うが、いかがか。

答 ILCの実現に向けては、ILCの有する多様な意義や価値を広く発信し、国民的な機運を盛り上げていくことが重要と認識している。また、令和5年3月以降、研究者から2030年を建設開始とするタイムラインが示されているため、政府による早期の誘致判断が必要であり、それを後押しする機運醸成の重要性がさらに高まっている。

世界で活躍する本県出身の大谷翔平選手などを活用したPRは、東北、岩手がILCの建設候補地であることを知らしめるだけでなく、「ILCで日本と世界をつなぐ」というILCの意義にも合致する夢のある提案と受け止めているが、実現に向けての課題もあるものと認識している。

県としては、これまで築き上げてきた多様な人材や人脈を生かした取り組みの展開に加え、ご提案の趣旨も踏まえて様々な手法を検討し、さらなる国民的な機運醸成に取り組んでいく。



県作成ILCリーフレット(抜粋)

■上記のほかに、下記についても質問をしています。

- 1 大船渡港の整備
- 2 県庁舎の整備
- 3 人口減少対策
- 4 教育施策

水産業の持続的な発展

問 近年、岩手県の主要魚種であるサケ、サンマ、イカの不漁が極めて深刻な状況である。水産加工業者の中には、原料を地元で確保できず輸送費を掛けて調達しており、従業員の維持や給与の支払いがままならない状況もあると聞く。また、地球温暖化などにより令和4年度の主要魚種の水揚げ量はサケが震災前の2%、サンマは7%、スルメイカは11%と大きく減少する一方、マイワシ、サバ、ブリなどの水揚げ量が増加している。各漁協や漁家は主要魚種の減少、魚種の変化への対応などに苦慮している。

県は令和4年3月に岩手県水産業リボン宣言を行っているが、激変する水産業の環境変化を受け、本県水産業の持続的な発展に向けてどのような認識を持ち、取り組んでいくのか伺う。

答 主要魚種の不漁は漁業者や漁協、水産加工業者などの経営に深刻な影響を及ぼしており、水産業リボン宣言に基づき、関係者が一丸となって主要魚種の資源回復や、増加している資源の有効利用、新たな漁業・養殖業の導入の取り組みを進めていくことが重要である。

サケ資源の回復に向けては、種卵の確保を進め、北海道などからの提供を合わせて目標の約6割の5,000万粒ほどを確保しているほか、ウニ資源の蓄養・出荷では12漁協に取り組みが拡大している。サケ・マス類の海面養殖では、来年度の水揚げに向け、今年度より3地区多い9地区で取り組みが進められている。県では、こうした取り組みを支援しながら、本県の水産業が活性化するように、関係機関・団体と一丸となって取り組んでいく。



養殖場での水揚げの様子

■上記のほかに、下記についても質問をしています。

- 1 沿岸振興
- 2 岩手県産の農林水産物・食品の海外輸出促進
- 3 鳥獣被害対策とジビエの利活用
- 4 宮古港の港湾振興 ほか

海外からの誘客拡大に向けた トップセールス

問 海外からの観光客誘致には、現地海外事務所と連携した取り組みが必要と考える。現在、韓国との関係が良好で、誘客が見込めると思うが、ソウル事務所と連携した知事のトップセールスが不足していると感じる。知事が現地に赴き、本県の魅力を発信することで、海外からの誘客に対する意気込みを示す場になるほか、現地の方々と直接意見交換することで現地のニーズを知る機会となるなど、本県の観光産業振興に大きな効果が期待される。観光産業におけるトップセールスを積極的に行ってほしいと思うが、今後の方針を伺う。

答 これまで、いわて花巻空港への定期便・チャーター便の誘致と連動して、中国、台湾、香港などで航空会社や旅行会社の訪問や観光交流レセプションの開催、また、農林水産物や日本酒の輸出拡大に向けた取り組みと連動して、東南アジアや北米などで観光PRを行うといったトップセールスを展開してきた。

今般の盛岡市のニューヨーク・タイムズ紙への掲載や本県出身のスポーツ選手の活躍などにより、岩手県の知名度が世界で高まっていることから、この契機を生かし、海外からのさらなる誘客拡大を図っていきたい。

今後は個人旅行客の伸びが期待できる国や地域へのアプローチを進めていくほか、近年は韓国からスキーなどの特定の目的を持った旅行者が増加している状況を踏まえ、北東北三県・北海道ソウル事務所と連携したトップセールスの実施も検討していく。



海外でのトップセールスの様子

■上記のほかに、下記についても質問をしています。

- 1 農業振興
- 2 いわて花巻空港の利用促進
- 3 GXの推進
- 4 DXの推進 ほか

12/6(水) 一般質問

各質問者の録画映像はQRコードからご覧いただけます。または「岩手県議会中継」で検索してご覧いただけます。
※視聴環境はWi-Fiおよび各キャリアの高速回線サービスを推奨します。



1人目
いわて県民クラブ・無所属の会
くどう つよし
工藤 剛 議員
◆八幡平選挙区
各議員の質問の詳細と答弁の内容は、動画でご覧いただけます。



スキー場を核とした観光振興

問 スキー場は、小さな頃からウインタースポーツに慣れ親しむためにも欠かせない施設であり、冬季の観光施設でもあるが、県内スキー場の来場者数を見ると、コロナ感染症や物価高の影響もあってか落ち込み傾向にある。

ウインターリゾートの核となるスキー場に、国外、県外から積極的に誘客していくことは、岩手の観光にとどまらず、ウインタースポーツへの関心の高まりと振興にもつながると考えるが、スキー場を核とした観光振興に対する県の考えと取り組みについて伺う。

答 県内スキー場の来場者数は、アルペンスキー世界選手権盛岡・雫石大会が開催された平成初期の350万人前後をピークに大きく減少しているが、最近では外国人の来場が目立ち、また、バック・カントリー・スキーなどの人気も高まっている。岩手県にとってスキー場は冬季の観光客を確保する上で欠かせない存在であり、県内のスキー場は、雪質に恵まれ市街地からのアクセスに優れるなど、国内外から高い評価を得ている。今年度は1月からいわて冬旅キャンペーンの一環として、民間と連携して首都圏で県内スキー場のPRイベントを開催するほか、旅行商品の造成支援、さらには海外からの誘客を図るため東北観光推進機構や青森県、秋田県と連携し、インフルエンサーの招待なども実施している。また、八幡平市では民間の方々から旧八幡平スキー場の活用に取り組んでおり、こうした取り組みとも連携しながら国内外からの誘客を図り、スキー場を核とした冬季の観光振興を図っていく。



いわて冬旅キャンペーンチラシ

■上記のほかに、下記についても質問をしています。

- 1 人口減少対策
- 2 第一次産業の振興
- 3 県北地域の高規格道路の整備
- 4 市町村との連携



2人目
自由民主党
むらかみ ひでのり
村上 秀紀 議員
◆紫波選挙区
各議員の質問の詳細と答弁の内容は、動画でご覧いただけます。



クマ被害対策の強化

問 昨今、クマによる被害は深刻化しており、農業被害のみならず人的被害も珍しくなくなっている。

著しく増加するクマ被害に対しては、農業被害の防止という観点にとどまることなく、市町村とも連携しながら、市街地への出没の抑制、さらにこれまで以上の捕獲などに取り組んでいく必要があるのではないかと考えている。狩猟を担う方々への支援を含め、今まさに緊急的な対応が必要と考えるが、知事の考えを伺う。

答 11月27日に開催したツキノワグマ緊急対策会議では、科学的な知見に基づく個体数管理と被害防止対策について、関係者で改めて情報共有を図るとともに、必要な情報を県民に発信することができたと考えている。

これまで本県では、クマとの適正な共存関係を探る中でも、捕獲許可の弾力的な運用を行ってきており、11月20日時点で県内の捕獲頭数は820頭に達している。11月13日には北海道・東北地方知事会の会長として、クマの指定管理鳥獣への追加などの緊急要望を行い、環境大臣や農林水産副大臣にも強い危機感を共有していただいた。

自然と人間の共存を図り、中山間地域の未来を創っていくためには、クマを人の生活圏に寄せ付けないゾーニングの考え方を普及させるとともに、冬眠明けに行われるクマの春季捕獲を県として支援する必要がある。そのため、今議会に追加提案する補正予算案に必要な経費を計上しており、市町村や猟友会などと連携しながら、自然と人間が共存できる地域社会を築いていく。



北海道東北知事会による緊急要望の様子

■上記のほかに、下記についても質問をしています。

- 1 いわて県民計画(2019~2028)
- 2 子育て環境の充実
- 3 多様化する社会環境への対応
- 4 地域医療 ほか



3人目
日本共産党
たかだ いちろう
高田 一郎 議員
◆一関選挙区
各議員の質問の詳細と答弁の内容は、動画でご覧いただけます。



中小零細事業者への支援

問 30年に及ぶ経済停滞に物価高騰が襲いかかり、県民生活の厳しさを深刻にしている。中小零細事業者は、売上が上がっても粗利益は落ち込む中、融資返済とともに賃上げに取り組みながら、事業の継続に努力しているが、5年間で県内の事業所は3,077事業所が減少するなど、厳しい現状にある。

中小企業者等事業継続緊急支援金の売上要件を緩和し、支援金を引き上げ拡充すべきである。例えば、大船渡市では、法人は15万円、個人には7.5万円の上乗せを行うなど、県内9市町で県の事業に上乗せを行い、事業者から大変歓迎されている。

物価高騰で影響を受ける事業者から最も歓迎されている事業であり、市町村と連携して取り組むべきではないか。

答 中小企業者等事業継続緊急支援金は、エネルギー価格・物価高騰の影響を受ける中小企業者に緊急的な支援を行う制度として、これまで2回にわたって市町村とも連携しながら実施し、事業者の事業継続に一定の役割を果たしてきたものと認識している。

物価高騰などは依然として続いているが、今後は、物価高騰に負けない県民の安定した暮らしの実現に向けて、中小企業者の賃上げを促進していく施策がより求められていると考えている。

このことから、今議会に中小企業者の賃上げ支援のための予算案を追加提案する予定であり、今後は、この支援事業を通じて中小企業者の事業継続を支えていく。



中小企業者等事業継続緊急支援金(令和5年度事業)チラシ

■上記のほかに、下記についても質問をしています。

- 1 賃上げと待遇改善、人間を大切に作る働き方改革
- 2 子育て支援策と社会保障の拡充
- 3 年金制度
- 4 高すぎる国保税 ほか

県議会からのお知らせ

●インターネット中継

県議会ホームページでは、**本会議や予算・決算特別委員会のライブ中継のほか、録画中継も行っていますので、ぜひご覧ください。**

●岩手県議会公式チャンネル(YouTube)

一般質問等のほか、岩手県議会の役割や議員のしごとなどをわかりやすく紹介する動画「わたしたちの岩手県議会」をYouTubeで配信しています。公式チャンネルからご覧ください。

岩手県議会公式動画チャンネル



●岩手県議会Facebook

議会の日程や最近のトピックなどを配信するため、岩手県議会Facebookページを開設しています。県議会ホームページの「岩手県議会Facebook」をクリック!



●テレビ広報 県議会ダイジェスト番組「きょうの県議会」[総集編]

一般質問の様子を3分程度にまとめた番組を、テレビ岩手、岩手めんこいテレビの各放送局で質問当日の18時50分台に放送します。

また、一般質問が終わった翌々週の土曜日に「きょうの県議会総集編」をテレビ岩手で放送します。令和5年度からは字幕および手話通訳を付ける取り組みを行っています。 ※放送時間は変更になる場合があります。

●一般質問に登壇する議員と質問項目

各定例会で一般質問に登壇する議員と質問項目は、**定例会開会日の本会議終了後**に県議会ホームページでお知らせしています。県議会ホームページで「一般質問通告」をクリック!

